

3版化学の新標準演習 正誤表 1刷用

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
本冊	62	92（2）	1行目	〈末尾に追加〉	（ NaHCO_3 の式量：84）	2023/12/28
本冊	89	123	2行目	ヨウ素ヨウ化カリウム水溶液	ヨウ化カリウム水溶液	2024/12/5
本冊	116	例題54	---	〈問題，考え方変更〉	〈図版リスト：2に差し替え〉	2024/12/5
本冊	116	例題54（2）	---	25°C ， $4.0 \times 10^5 \text{ Pa}$	25°C ， $1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$	2025/3/27
本冊	133	□4①	図	〈二酸化ケイ素の結晶中〉C	O	2024/5/2
本冊	143	例題63 考え方（1）	1・4行目	〈反応式の右边〉 H_2O	$2\text{H}_2\text{O}$	2024/4/14
本冊	155	210（3）	1行目	放電により2.0molの電子が	放電により1.0molの電子が	2023/5/22
本冊	156	214	図	「充電時」と「放電時」	〈位置を入れ替える〉	2025/3/19
本冊	164	□2	図	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/21
本冊	164	□2③	---	それ自身は変化せず，反応速度を大きくする物質。反応熱は変化しない。	自身は変化せず，反応速度を大きくする物質。反応エンタルピーは一定。	2024/5/20
本冊	165	□2（3） 解答	---	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	167	例題76 問題	---	反応熱（2か所）	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	167	例題76 考え方（1）②	---	〈全文差し替え〉	（反応エンタルピー ΔH ）＝（生成物のエンタルピーの和）－（反応物のエンタルピーの和）で求める。 $\Delta H = 0 - 9 = -9$ [kJ]（発熱反応である。）	2024/5/20
本冊	167	例題76 考え方（2）⑤	---	反応物と生成物のエネルギーは同じで，反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	167	例題76 解答 ②・⑤	---	9	－9	2024/5/20
本冊	169	225（2）・（8）	---	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	193	□3②（e）	---	溶解熱が大～水に加えて希釈する。	溶解時の発熱量が大 水に少量ずつ加えて希釈する。	2024/12/5
本冊	194	□5（5）	---	濃硫酸は⑤□熱が大きく，	濃硫酸は溶解時の⑤□量が大きく，	2024/12/5
本冊	194	□5（5） 解答	---	溶解	発熱	2024/12/5
本冊	199	269（6）	---	濃硫酸を水で希釈すると，液温が上昇した。	濃硫酸を希釈するときは，水に少量ずつ加えて薄める。	2024/12/5
本冊	233	306	3行目	Fe^{3+}	Fe^{2+}	2023/10/11

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
本冊	249	□4③	2-メチル-1-ブテンの構造式	CH_3	CH_2	2024/9/24
本冊	256	□1③（c）	反応式	H_2O	H_2O 〈2か所〉	2024/5/21
本冊	264	□2①	反応式	〈右向きの矢印の上に追加〉	エステル化	2024/6/19
本冊	264	□2①	反応式	〈左向きの矢印の下に追加〉	加水分解	2024/6/19
本冊	279	357（3）	1行目	生成する有機化合物の	生成する芳香族化合物の	2024/6/19
本冊	300	380	2行目	結成	形成	2024/5/21
別冊解答	50	110 解説（2）（i）	3行目	HSO_4^{2-}	HSO_4^-	2024/8/19
別冊解答	79	167 解説（3）	4行目	$= 1.0 \times 10^5 \times (3 / (3+2)) = 0.60$	$= 3.0 \times 10^5 \times (2 / (2+1)) = 0.20$	2023/5/8
別冊解答	79	167 解説（3）	5行目	$= 1.0 \times 10^5 \times (2 / (3+2)) = 0.40$	$= 3.0 \times 10^5 \times (1 / (2+1)) = 0.10$	2023/5/8
別冊解答	79	167 解説（3）	11行目 〈式の分子〉	0.60×10^5 , 0.40×10^5	2.0×10^5 , 1.0×10^5	2023/5/8
別冊解答	94	192 解説（4）	2行目	炭素ケイ素	炭化ケイ素	2024/12/5
別冊解答	97	196	16行目	$0.500 \times 56.0 = 28.0$ [kJ]	$0.500 \times 56.5 = 28.25 \div 28.3$ [kJ]	2023/5/22
別冊解答	102	205 解説	下から3行目	0.945 [J]	0.945 [kJ]	2024/12/5
別冊解答	108	214 解答（3）	---	リチウム電池の	リチウムイオン電池の	2024/12/5
別冊解答	115	223 解説	図	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	116	225 解説（2）	---	反応熱 〈2か所〉	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	116	225 解説（8）	9～10行目	差が反応熱であるから，反応熱の値は	差が反応エンタルピーであるから，その値は	2024/5/20
別冊解答	117	227 参考 〈後者〉	図	反応熱 9kJ/mol	反応エンタルピー -9kJ/mol	2024/5/20
別冊解答	120	231 参考 〈前者〉	---	反応熱 〈5か所〉	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	128	248 参考	---	〈変更〉	〈図版リスト：3に差し替え〉	2024/12/5
別冊解答	134	255 解説（5）	5行目	混合溶液40mL	混合溶液50mL	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	7行目	〈左辺の分母，右辺の式と単位を訂正〉	0.050 , 2.0×10^{-2} [mol/L]	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	9行目	〈右辺の式を修正〉	2.0×10^{-2} [mol/L]	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	10行目	〈右辺の()内を修正〉	2×10^{-2}	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	11行目	〈右辺の式を修正〉	$2 - \log 10^2 = 1.7$	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	13行目	$\text{pH} = 14 - 1.6 = 12.4$	$\text{pH} = 14 - 1.7 = 12.3$	2023/10/11

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
別冊解答	134	255 解答（5）	---	12.4	12.3	2023/10/11
別冊解答	139	262 解説（4）（エ）	反応式	2H₂O	H₂O	2024/11/11
別冊解答	147	276 解説（1）（3）	18行目	[82]（6）参照	[75]（6）参照	2024/5/27
別冊解答	151	281 解答	---	⑫乾燥剤（吸着剤）	〈削除〉	2024/5/27
別冊解答	155	289 解説 ⑤	3行目	〈反応式左辺〉H₂O	2H₂O	2024/6/11
別冊解答	161	297 解説（1）（a）	9行目	2NO	2NO₂	2024/10/29
別冊解答	181	331 解説（2）	構造式	〈構造式の番号〉	〈(ii) と (iii) を入れ替える〉	2024/7/8
別冊解答	191	341 解説（1）④	構造式	C-C-C-CHO	C-C-C-C-CHO	2025/3/27
別冊解答	194	345 解説（3）	1行目	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	207	358 解説（1）左段(viii)	---	〈構造式〉	〈○のついていない価標を削除〉	2024/5/21
別冊解答	210	361 解答（1）C	---	〈構造式〉	〈-OHの下に追加〉-COONa	2024/6/19
別冊解答	213	365 解説（4）（ウ）	---	〈「弱い酸性」の上の構造式〉C-CH	C-OH	2025/2/4
別冊解答	251	420 解答	---	(1)ウ (2)カ (3)イ (4)ア (5)エ (6)ク (7)オ (8)キ (9)コ (10)ケ	(1)ウ (2)キ (3)イ (4)ア (5)オ (6)ケ (7)カ (8)ク (9)エ (10)コ	2024/5/2

<>/>で囲まれた部分は以下のような文字です

下線 <u>□ </u>

イタリック <i>□ </i>

太字 □

上付き [□]

下付き _□

お使いの刷数によっては、修正済みのものも含まれています。（正誤表をご覧ください。）

1：前見返し	非金属元素 典型金属元素 遷移元素 (遷移元素以外は 典型元素)
2：本冊 p. 116例題54	例題 54 気体の溶解度 酸素は 25℃, 1.0×10^5 Pa で, 1.0L の水に 1.25×10^{-3} mol 溶ける。 (1) 25℃, 4.0×10^5 Pa で, 水 1.0L に溶ける酸素は何 g か。(分子量: $O_2 = 32$) (2) 25℃, 4.0×10^6 Pa で, 水 1.0L に溶ける酸素は, 0℃, 1.0×10^5 Pa では何 L か。 考え方 ヘンリーの法則の 2 通りの表現方法。 ① 溶解する気体の物質量は, 圧力に比例する。 ② 溶解する気体の体積は, 溶解した圧力の下では, 圧力に関係なく一定である。 (1) 気体の溶解度(物質量)は圧力に比例する。 25℃, 4.0×10^5 Pa での O_2 の溶解量は, $1.25 \times 10^{-3} \text{ mol} \times \frac{4.0 \times 10^5}{1.0 \times 10^5} = 5.0 \times 10^{-3} \text{ [mol]}$ 分子量 $O_2 = 32$ より, モル質量は 32g/mol。 この条件で溶ける O_2 の質量は, $5.0 \times 10^{-3} \text{ mol} \times 32 \text{ g/mol} = 0.16 \text{ [g]}$ (2) 25℃, 1.0×10^6 Pa での O_2 の溶解量は, $1.25 \times 10^{-3} \text{ mol} \times \frac{1.0 \times 10^6}{1.0 \times 10^5} = 1.25 \times 10^{-2} \text{ [mol]}$ 気体のモル体積は標準状態で 22.4L/mol。 0℃, 1.0×10^5 Pa で溶ける O_2 の体積は, $1.25 \times 10^{-2} \text{ mol} \times 22.4 \text{ L/mol} = 0.28 \text{ [L]}$ 解答 (1) 0.16g (2) 0.28L
3：別冊解答 p. 128248 参考	参考 アンモニアの電離定数 K_b について, $NH_3 + H_2O \rightleftharpoons NH_4^+ + OH^-$ の電離平衡においては, $[H_2O]$ は $[NH_3]$, $[NH_4^+]$, $[OH^-]$ に比べて多量にあり, かつ, NH_3 の電離によって消費される量は極めて少量なので, 常に一定とみなせる。 したがって $[H_2O]$ は平衡定数の式には含まず, NH_3 の電離定数 K_b は次式で表せる。 $K_b = \frac{[NH_4^+][OH^-]}{[NH_3]}$ 一般に, 溶解時の水の濃度 $[H_2O]$ は常に一定とみなして, 平衡定数の式には含まない。
4：別冊解答 p. 232390 参考〈後者〉	参考 メチオニンの硫黄反応について システインの $-SH$ は $NaOH$ 水溶液と加熱すると HS^- として脱離し, PbS を生成する。一方, メチオニンの $-SCH_3$ は $NaOH$ 水溶液と加熱しても CH_3S^- として脱離しないので, PbS は生成しない。(ただし, $NaOH$ の融解液との反応では S^{2-} を脱離し, PbS を生成する。)